

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 4 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671200131
法人名	社会福祉法人 有誠福祉会
事業所名	グループホーム まことの家
所在地	徳島県名西郡石井町高原字桑島558-1 (電話) 088-675-3177

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 6 月 24 日

【情報提供票より】(平成 20 年 5 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 1 月 6 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4 階建ての	階 ~	4 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,800 円	その他の経費(月額)	光熱水費7,000円、その他実費	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
または1日当たり		1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 5 月 10 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	0 名	要介護2	0 名			
要介護3	3 名	要介護4	4 名			
要介護5	2 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	87.3 歳	最低	79 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	手束病院・浜崎歯科医院
---------	-------------

徳島県 グループホームまことの家

1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は田畑に囲まれた静かな場所にあり、4階建ての最上部にグループホームがある。屋上では草花を植え庭園としたり、机を出して食事を楽しんだりと生活の場として活用している。開設から7年が経過し利用者は年々重度化し、要介護度の平均は約3.9である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「利用者と共に食事を楽しむ支援」という前回課題は改善されていた。職員は利用者と一緒にものを食べ、同じテーブルで食事を楽しんでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解して全職員で自己評価票を作成し、情報の共有も図られていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者代表、家族会代表、地域代表、民生委員、行政職員、事業所職員が参加し、外部評価結果の報告や運営についての意見交換等が行われている。討議した内容は全職員に周知し、情報が共有されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置したり家族の来訪時に要望等を聞いたりしている。また、年3回家族会を開催し意向の把握に努めている。苦情等に対しては速やかに対応できるよう職員間で常に話合っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元の祭りや年2回行われる道路や用水の清掃活動等に参加し、地域の一員として交流を深めている。散歩などの外出時には、出会った人たちに声をかけ言葉を交わすよう心がけている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービス事業としての役割を認識した理念が作成されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を理解している。ミーティング等で常に話し合い、理念にそったケアの実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の祭りや年2回行われる道路や用水の清掃活動等に参加し、地域の一員として交流を深めている。散歩などの外出時には、出会った人たちに声をかけ言葉を交わすよう心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解して課題等に対して検討し、改善に向けた取り組みがされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者代表、家族会代表、地域代表、民生委員、行政職員、事業所職員が参加し、外部評価結果の報告や運営についての意見交換等が行われている。討議した内容は全職員に周知し、情報が共有されている。開催頻度は3ヶ月に1回である。	○	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用状況の報告書を届けたり運営に関する相談等をしたり、また、助言をもらうなど積極的に交流する関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「まことだより」、「家族会」をそれぞれ年3回発行、開催している。また、一人ひとりの状態に応じてその都度報告などの支援がなされている。金銭管理簿は定期的に家族の確認サインがされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり家族の来訪時に要望等を聞いていたりしている。また、年3回家族会を開催し意向の把握に努めている。苦情等に対しては速やかに対応できるよう職員間で常に話合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の大切さをよく理解しており、職員の異動は最小限となるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には接遇マナーを受講し、利用者に接する基本を学ぶなど段階的に研修を受講できるよう計画している。また、受講した内容は全職員に報告し情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会等へ積極的に参加し、他の事業所職員との交流を深め、率直な意見交換ができるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に事業所を見学してもらったり、職員との顔合わせをしたりと徐々に馴染めるよう工夫している。家族にも入居後何日かはできる限り面会に来てもらえるよう依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者、職員が家族のような環境や親近感を持てるよう努力している。また、家事を分担したり、お互いをねぎらい合ったりと自尊心を傷つけない配慮をしながら共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向にそった支援ができるように時間をかけて観察し、行動や表情等から生活に対する希望等を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向や日々関わる職員全員の気づきや意見を参考に介護計画を作成している。また、介護計画は全て家族の同意が得られていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しに加え、毎月カンファレンスを実施しており、状態の変化や家族の希望に応じて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、看護師による日常的な健康管理や医師との連絡体制を整備している。医療処置を受けながらの生活維持を家族や病院と連携しながら支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に継続してかかれるよう支援するなど、利用者・家族等の希望を大切にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の方針は入居時に対応方針を説明し、同意を得ている。重度化と終末期には家族、医師等と話し合い、全員で方針を共有したうえで希望にそった支援ができるよう体制が整備されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	歯磨きと排泄への誘導時等には利用者への尊厳に配慮した言葉かけが行われている。特に本人の主張には傾聴し、受容するよう心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	相手のペースに合わせ見守ることを重要視し、手を出し過ぎないように心がけ、できないことや間違っていることはさりげなく支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人併設施設の管理栄養士が献立をたてている。一、二品は季節感のあるものや昔懐かしい食材を使用し、食事を楽しめるよう工夫している。職員は利用者を介助しながら同じテーブルで違和感なく一緒に食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にそった時間、間隔で入浴している。利用者の状態によって入浴が難しい時には足浴やシャワーなど本人が満足できる方法で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗いや洗濯物たたみ、花の水やりなど本人の得意分野や力を活かして生活を楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い時などには近くの神社に出かけている。利用者の重度化に伴い全員そろっての外出は困難になっているが、広い屋上を利用して外気に触れられる機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームは4階にあり、エレベーターのドアが玄関として自由に入出りできるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練をととして災害時の避難対応を学習している。4階という立地条件の中で重度者をどう守るかを考え、地元消防団や隣接する関連施設との連携体制が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の摂取量や体重などの栄養状態はすべて記録されていた。しかし、水分摂取量は目測で確認し、記録されていない。	○	高齢者の方には特に水分摂取が重要であることから、目測だけでなく大まかな摂取量を記録し、状態の変化時の参考にされることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは4階建ての最上階にありエレベーター前には手作りの作品が飾られ、来訪者を楽しませてくれる。広いベランダには花いっぱいのプランターが置かれ、車椅子の方でも自由に出入りできるようになっており、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンス、ソファなど自宅で使用していたものに囲まれて生活できるよう自由に持ち込みができるようになり、本人が使いやすいように配置されている。		